

(仮称) 海賊と呼ばれた、青少年委員会 運営方針

副理事長予定者 渡邊 真也

委員長予定者 西村 啓佑

副委員長予定者 山口 隼平

■委員会テーマ

できない理由より、どうやればできるかを考える。

■委員長所信

やってみたいことを

具体的に行動にしてみようと思うと、
世の中にはこんなにたくさんの
規制やルールがあるのかと驚きます。

ちょっと真剣に実現を考えると、
「それをやるには〇〇に申請を出して…」
「△△にも許可を得る必要がある」と、
ほぼ必ず”規制の壁”にぶつかる。

そういうことが何度かあると、
「どうせできない」「きっとできない」
「なにかきっとできない理由がある」と、
はじめる前からあきらめる癖がついてしまう。

そして、いつしか、
じぶんの”やりたいこと”も
わからなくなってしまう。

「パパ、ママ、
ぼくギターを弾きたいんだ。
じぶんのチカラを試してみたいから
路上でライブをやってみたい！」

子どもに相談されたとき、
いちばん最初に伝えることばが、
「路上ライブをやるには許可が必要」と
規制やルールの話だったなら、
子どもはどんなふうに思うだろう。

もちろん、規制やルールの
めんどくささに負けないほどの情熱で
「やりたいことをやれ」もあるけれど、
“できない理由”の羅列だけではきっと
子どもの” やってみたい”は消えてしまう。

今年の青少年委員会、
「海賊と呼ばれた、青少年委員会。」は、
“できない理由”ではなく、
“どうやればできるか(実現のための方法)”を
考える委員会にしたいと思っています。

やりたいことを、
どうやれば実現できるかを
子どもといっしょに考えられる
ぼくたちでありたい。

禁止ではなく、解放を。

■担当事業など（予定）

- ・第34回わんぱく相撲調布場所の開催〔5月第一例会/公益事業〕
- ・(青少年)例会の開催〔8月例会/公益事業〕
- ・第43回福祉まつりへの参画〔12月/公益事業〕

■最後に

本年度の青少年委員会は、
5月の事業(わんぱく相撲)と
8月の事業(自由企画)のふたつが主な事業です。
委員会として、このふたつの事業を成功させるためには、
委員会がどれだけコミュニティとして成功できるかが
重要だと考えています。

5月の事業(わんぱく相撲)を運動会、
8月の事業(自由企画)を文化祭とイメージすると、
わかりやすいかもしれません。
足が速い生徒が多いクラスが運動会で結果を残すわけではなく、
歌が上手な生徒が多いクラスが文化祭で結果を残したわけでもなかった。

結果を残したクラスの共通点はいつも
コミュニティとして成功していたかどうか。

たのしい委員会にすることこそが、
結果的に事業の成功にも繋がると信じて
委員会運営できればと考えています。

どうぞよろしくお願いいたします。